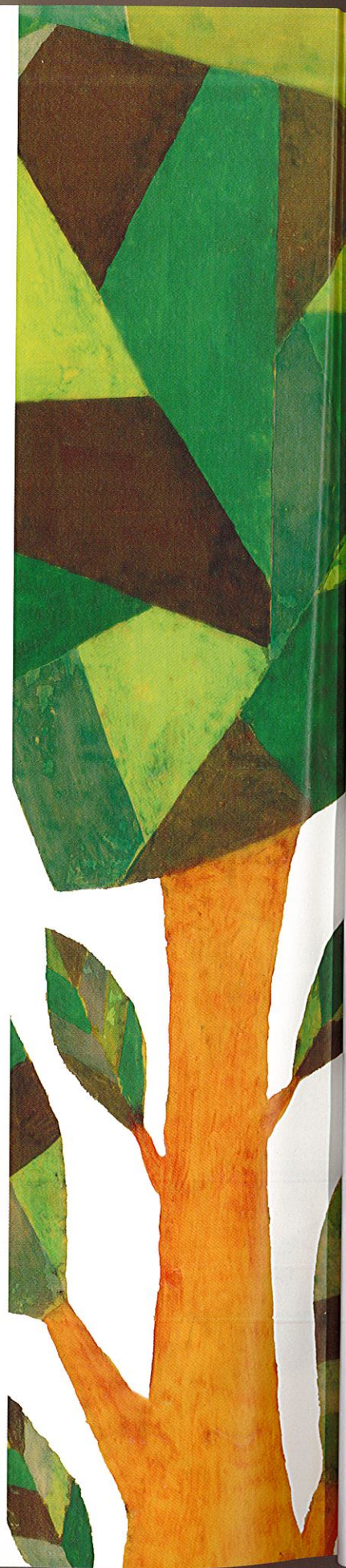


あきまで

# 国語 1

光村図書



中扉には、学習の目標と教材を季節の植物と共に示している。身につけたい力を確かめ、学習を進めていこう。



1 学びをひらく



2 新しい視点へ



3 言葉をつなぐ



4 つながりの中で



5 いにしえの心に触れる



6 論点を捉えて



7 自分を見つめて



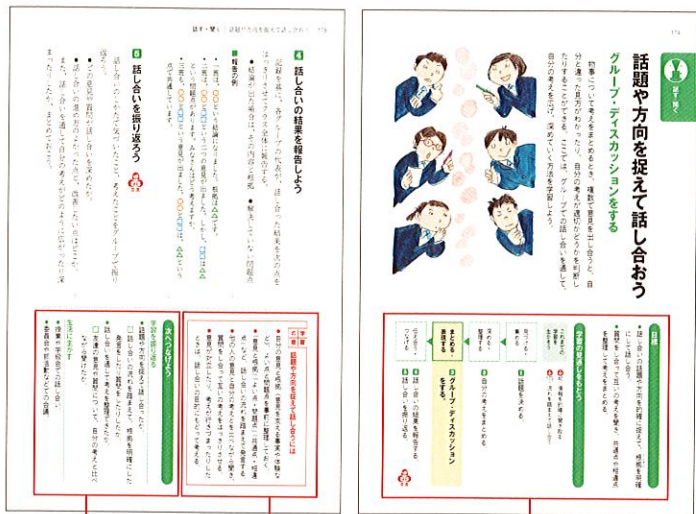
文法／漢字に親しもう



# この教科書で学習する みなさんへ

## 主な教材の構成と学習の流れ

話す・聞く 書く



この教科書を使うみなさんが、見直しをもって、主体的に学習に取り組んだり、振り返ったりするとき役立つ教科書の機能を説明している。効果的に学習を進めるために活用しよう。

## 読む



## 効果的な学習のために

### 全体の見直しをもつ

- ▼学習の見直しをもとう (8ページ)
  - ▼学習のための用語一覧 (326ページ)
- 教科書全体での学習活動を見通すために、一年間で学習する言葉の力や用語を一覧で示している。身につける力を確認したり、学習計画を立てたり、学習を振り返ったりするときに活用しよう。

### 「話す・聞く」「書く」の力を磨く

- ▼練習 話す・聞く (40・173ページ)
  - ▼書く (55・117・179ページ)
- 生活の中のひとつまを例に、「話す・聞く」「書く」の基本的な力をつける学習のページ。他の教材を学ぶときに役立てよう。

### 読みの基本を確認する

- ▼文学的な文章を読むために (327ページ)
  - ▼説明的な文章を読むために (329ページ)
- 作品や文章をより深く読み取るために、基本的な用語を確認しよう。

### 読書の世界を広げる

- ▼読書生活を豊かに (79ページ)
- ▼読書に親しむ (189ページ)

### 学習の見直しをもつ

その教材で身につける力や学習の流れを示している。これまでに学習してきたことを生かしながら、見直しをもって学習に取り組んでいこう。

### 学習・活動に取り組む

学習を通して身につける力のポイントを具体的に示している。基礎・基本を押さえたり、身につける力を確認したりするときに活用しよう。

### 次の学習に生かす

学習したことを振り返って確認し、次の学習や日常生活に生かしていくためのポイントを示している。活動を通して、どのようなことを学び、身につけたのか、最後にもう一度見直そう。

## 主な記号

### 交流

課題について確認し合ったり、感想を述べ合ったりする場。

### 音声教材

CDなどを利用する学習。

### 参考にしたい表現

話すとき、書くときに役立つ表現。

### 新出漢字・新出音訓

その教材で学習する漢字、漢字の読み方。

### 注意する語句

その教材に使われている重要な語句。

意味を調べる。短文を作る。

類義語を調べる。対義語を調べる。

関連語句を確認する。

広がる読書 (教材末)

教材と同じ著者・テーマの本の紹介。

関連するページ

示す。

### 読書活動 (88ページ)

### 読書案内 (90・197ページ)

### 読書コラム (93ページ)

### 広がる読書 (各教材末)

さまざまな作品と出会い、読書の世界を広げよう。

### 情報を集める

### 情報の集め方を知ろう (60ページ)

### 情報コラム (62ページ)

日常生活で必要な情報を集める方法や、注意点について学習しよう。

### 言葉を楽しむ・言葉を学ぶ

### 季節のしおり (35・94・138・200ページ)

言葉や表現の豊かな広がりを読み味わおう。

### 文法への扉・文法・言葉・漢字

言葉の決まりや語句・漢字について知識を整理しよう。「文法への扉」は、巻末の「文法」と共に学習しよう。

### 〇〇に生かす











































他領域や他教科、生活の中などで活用できる事項をまとめています。























読書・情報					説明・記録					読むこと	
読書コラム	読書案内	読書活動	情報コラム	情報	ノンフィクション	説明	記録	随筆	説明		説明
本との出会い	本の世界を広げよう	私が選んだこの一冊 読書紹介をしよう	本から情報を集める インターネットを利用する 新聞の紙面構成の特徴を知る	情報の集め方を知ろう	桜守三代	幻の魚は生きていた	シカの「落ち穂拾い」 —フィールドノートの記録から	空を見上げて	ちよつと立ち止まって	ダイコンは大きな根?	教材 
93	90・197	88	64 63 62	60	190	164	118	73	49	44	
											音読・朗読 声に出して読む
											語句の理解 文脈の中での語句の意味
											文章の理解 段落の役割、段落の関係
											中心と部分、事実と意見
											要約する、要旨を捉える
											自分の考えをもつ 構成や展開について
											表現の特徴について
											文章を読み、ものの見方 や考え方を広げる
											読書と情報 情報の集め方 を知り、適切に読み取る
読書への興味をもつ					伝えたい内容に合わせて 文章を引用し紹介する					学習のポイント ●印は、「学習の窓」で 解説している事柄	
情報の集め方を知り、 目的に応じた方法を考 える					人物の生き方に触れ、 自分の考えを深める					文章の要旨を捉える●	
					事実と意見の関係に注 意して読む●					言葉について、自分の 考えを深める	
					文章の構成に着目して 読む●					段落の役割に着目して 読む●	

古典 (伝統的な言語文化)				文学							読むこと		
漢文	古文	古文・解説	古文・音読	詩	小説	詩	物語	物語	物語	詩		物語	詩
今に生きる言葉	蓬萊の玉の枝 —「竹取物語」から	月に思う	音読を楽しもう いろは歌	ぼくがここに	少年の日の思い出	竹	大人になれなかった弟たちに……	星の花が降るころに	光る地平線	てがみ／太陽／魚と空	花曇りの向こう	野原はうたう	教材 
158	147	142	140	236	202	186	106	96	80	68	26	14	
													音読・朗読 声に出して読む
													語句の理解 文脈の中での語句の意味
													文語の決まりや 訓読のしかたを知る
													文章の理解 場面の展開
													人物の描写
													情景描写
													自分の考えをもつ 構成や展開について
													表現の特徴について
													文章を読み、ものの見方 や考え方を広げる
													読書と情報 本を読み、 引用しながら紹介する
漢文特有の言い回しに 読み慣れる				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									
言葉や表現を作者の思 いを想像しながら読む				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									
古文の言葉の響きや調 子に読み慣れる				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									
古典の作品と自分との つながりを考える				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									
仮名遣いに注意して音 読し、古典に読み慣れる				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									
漢文特有の言い回しに 読み慣れる				●印は、「学習の窓」で 解説している事柄									



漢字			言葉						文法			言葉			
漢字の練習	漢字3	漢字2	漢字1	言葉3	言葉2	言葉1	言葉を集めよう	言葉に出会うために	文法3	文法2	文法1	教材			
小学校六年生で学習した漢字	漢字の成り立ち	漢字の音訓	漢字の組み立てと部首	さまざまな表現技法	指示する語句と接続する語句	話し言葉と書き言葉	もっと「伝わる」表現を目ざして	声を届ける	単語の分類	文の組み立て	言葉の単位				
									249	244	240				
									↓文法への扉3	↓文法への扉2	↓文法への扉1				
									単語の性質を見つけよう	言葉の関係を考えよう	言葉のまとまりを考えよう				
257	222	133	41	219	135	73	72	65	18	229	188	78			
													音声の働きや仕組み		
														言葉の理解 意味に着目する	
														性質を理解する	
														表現技法	
														言葉の決まり 言葉の単位	
														語句と語句の関係	
														単語の性質	
														漢字 漢字に関する知識	
														漢字を読む	
														漢字を書く	

# 言葉に出会うために

## — 小学校から中学校へ

野原はつたう 工藤直子  
 声を届ける  
 書き留める  
 調べる  
 続けてみよう

教科書を開けば、  
 たくさんの言葉があなたを待っている。

新しい言葉に出会う喜びを知ろう。  
 気になる言葉に出会ったら、  
 立ち止まり、考えてみよう。

友達を増やすように、  
 自分の言葉を増やしていこう。  
 言葉の数だけ、世界は豊かに見える。  
 言葉の数だけ、未来は希望に満ちてくる。  
 言葉の数だけ、自分の可能性が開かれる。

さあ、小学校で学んだことを生かして、  
 中学校の国語を学んでいこう。



● 気に入った言葉に気持ちをこめて、声に出して読んでみよう。

# 野原はうたう

工藤直子 くどう なおこ

あしたこそ

たんぽぽはるか

ひかりを おでこに

くっつけて

はなひらく ひを

ゆめにみて

たんぽぽわたげが

まいあがります

とんでいこう どこまでも

あした

たくさんの「こんにちは」に  
であうために



# おれはかまきり

かまきりりゅうじ

おう なつだぜ

おれは げんきだぜ

あまり ちかよるな

おれの ころも かまも

どきどきするほど

ひかっているぜ

おう あついぜ

おれは がんばるぜ

もえる ひをあびて

かまを ふりかざす

すがた

わくわくするほど

きまつてるぜ





いのち けやきだいさく

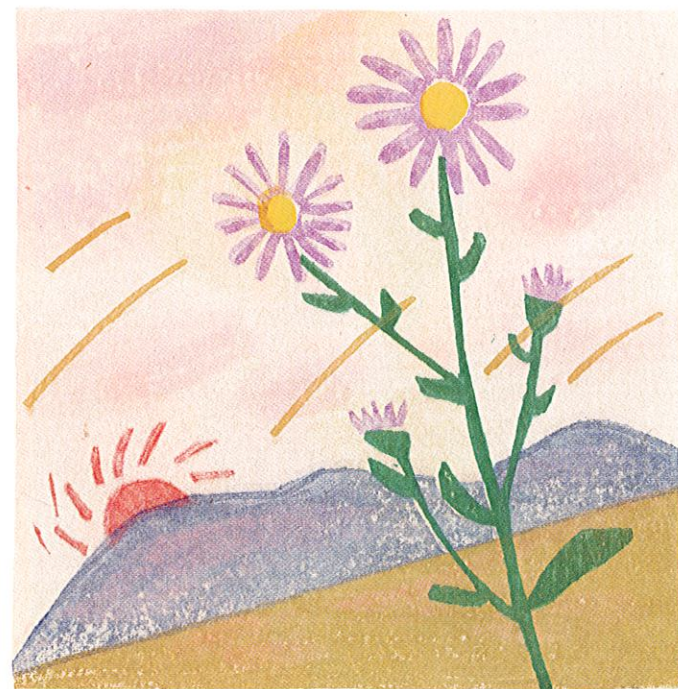
わしの しんぞうは  
 たくさん  
 ことりたちである  
 ふところに だいて  
 とても あたたかいのである  
 だから わしは  
 いつまでも  
 いきていくのである  
 だから わしは  
 いつまでも  
 いきていて よいのである



作者 工藤直子 一九三五（昭和一〇）——  
 台湾台北市生まれ。詩人・児童文学作家。  
 著書 「てつがくのライオン」「ねこはしる」「まるごと好きです」など。  
 出典 「のはらうた」



保手浜孝・絵



あきのひ のぎくみちこ

かぜが  
 とおりすぎました  
 わたしは はなびらを  
 ゆすりました  
 だれかに よばれたきがして  
 ふりかえると  
 ゆうひが くるくると  
 しずむところでした



# 声を届ける「音読・発表」

## 声のウォーミングアップ

▼二人一組になり、交代で声を届ける練習をしてみよう。

### 1 声を届ける相手を意識して

相手の前で回りながら、自己紹介をする。



正面に向き合ったときと、ちがう方を向いたときの声の伝わり方のちがいを比べてみよう。

### 2 相手に届く適切な声の大きさで

机二つ分ぐらいはなれて向かい合い、「私は〇〇が好きです。なぜかというところ…」と、好きな食べ物と理由を相手に聞こえるように話す。



クラスのみんながいっせいに話している状態で、相手に届くように話してみよう。

### 3 気持ちをこめて

いろいろな気持ちをこめた声で「おはよう。」と言う。

- ・うれしそうな声で
- ・悲しそうな声で
- ・おこった声で

↓うれしそうな声だと思ったら、「おはよう。何かいいことあったの。」

↓悲しそうな声だと思ったら、「おはよう。元気ないね。」

↓おこった声だと思ったら、「おはよう。どうしたの。」と、返事をしてみよう。

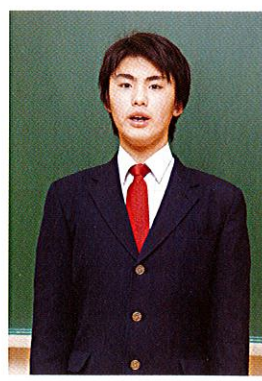


## 音読するときには

- 意味のまとまりがはっきりと伝わるように、言葉や文章の区切りに注意する。
- 内容のまとまりや場面の移り変わりを考え、間を取る箇所や長さを工夫する。
- 文章の意味や大切なところ、表現の特色を考えながら、読む速さや声の強弱、言葉の調子などを工夫する。

## 発表するときには

- 顔を上げ、聞いている人の方を見て話す。
- 聞き取りやすいようにはっきりと話す。
- 話す速さや声の強弱、間の取り方に気をつけ、大切な部分は、ゆっくりと大きな声で話す。
- 聞いている人の反応を確かめて、必要があれば、言いかえたり、付け足したりして話す。



## 日本語の音声

### ● 母音と子音

日本語の音は、母音 (a・i・u・e・o) と子音 (k・g・s・z など) の組み合わせでできている。

〈例〉はなびら h・a・n・a・b・i・r・a  
一つ一つの母音を相手に届けるように意識して話す  
と、はっきりした発音になる。

### ● 音の高さ

#### アクセント

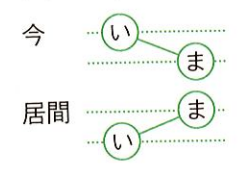
言葉の中にある音の高低をアクセントという。同じ言葉でも、どの音を高く、どの音を低く読むかで意味が変わることがある。

#### イントネーション

文全体の音の高低をイントネーションという。文の最後を上げるか下げるかで意味や調子が変わることもある。

アクセントやイントネーションに注意し、言葉の意味を正確に伝えよう。

アクセントによるちがい



イントネーションによるちがい

- 図書館に行くの。 (説明)
- 図書館に行くの。 (質問)



# 書き留める「学習の記録」

## 授業の内容がひと目でわかるように

ノートを取ることは、授業の内容を理解し、大切な部分をはっきりさせるために役立つ。後から見てもわかるように、内容ごとに欄を分けたり、色や矢印、図式、箇条書きなどを使ったりして、見やすさを工夫しよう。

## 記録する習慣をつける

板書だけでなく、自分の考えや気がついたこと、先生や友達の話なども書き留める習慣をつけ、三年間でたくさん言葉や言葉を記録していこう。ワークシートや作った作品なども保管しておき、学習のふり返りに役立てよう。

教材名や目標など  
教材名や、その日の学習内容、学習の目標などを書き、何を学ぶのかをはっきりさせる。

4/20 (水)	野原はうたう 好きな詩を選び、声に出して読む。 友達の発表の工夫に気づく。	漢字注意！ 詩と詞 詩人・詩集／歌詞
◎詩を選ぶ	◎言葉メモ あしたこそ↓明日はきっと	言葉・漢字など 気になる言葉や表現、漢字に出会った書き出しをおき、国語辞典や漢和辞典などで調べるとよい。
◎音読の工夫	私の工夫「あしたこそ」 「まいあがります」↓ゆっくり。 ふんわりした感じを出す。	自分の考えや 気がついたことなど
◎読む速さ	「読む速さ」ゆっくり／速く 声の大きさ大きく／小さく	板書や発言、 話し合いの内容など

## 書き方の工夫

大切などころや目立たせたいところは、次のような工夫をする。

- 枠で囲む。
- 線を引く。
- 矢印や箇条書きを使う。
- 図にする。
- 色で印を付ける。
- 記号やマークを付ける。

「おれはかまきり」 「おうなつだぜ」を速く大きく。 ↓元気な夏のかまきり。(木森)	「あきのひ」 五行目の後に間を取って読む。	「とんでいこう」↓力強く。 決意を表す。
↓どっしりしたけやき。(山田)	↑元気のよさがよく出ていた。	↑詩のイメージが広がる。

自分の考え・感想など  
次のようなことも書き留めておくと、授業の様子を思い出しやすい。  
・自分の考えや感想  
・先生の話  
・友達の発言

↓どっしりしたけやき。(山田)	◎気持ちや様子を想像する。 読み方の工夫に生かす。	授業のまとめ 今日は「野原はうたう」から詩を選び、工夫して読んだ。先生が読むときの工夫を三つ教えてくださった。私は速さの点を工夫した。練習時間に二回しか読めず残念。でも、聞いてくれた森さんは「わたげのふわっとした感じが伝わった。」と言ってくれた。
-----------------	------------------------------	--

授業のまとめ  
学習の終わりにふり返ってまとめを書くと、学びが整理され、身についた力を確認できる。  
・学んだこと  
・新しく知ったこと  
・感想や課題 など

## やってみよう

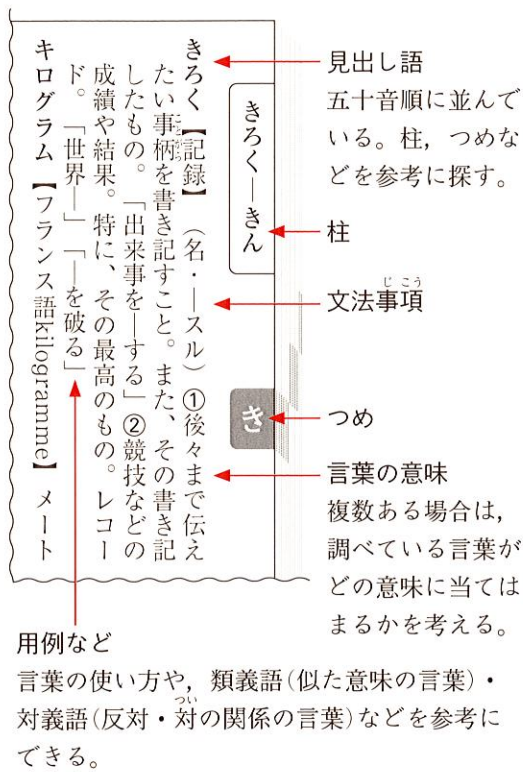
▼小学校のときのノートの取り方と比べて、これから工夫していききたいところを発表し合おう。



調べる 「辞典・事典・インターネット・図書館」

国語辞典

言葉の意味・使い方・漢字での書き表し方などを調べたいときには、国語辞典を使う。



やってみよう

異なる出版社の国語辞典を使い、「右」と「左」について調べて、説明のしかたを比べてみよう。

さまざまな辞典

国語辞典や漢和辞典の他にも次のような辞典がある。  
**類語辞典** 意味が似ている言葉を集めた辞典。意味のちがいや言葉の使い分けについてくわしく説明してある。  
**ことわざ・慣用句辞典** たくさんのことわざや慣用句を集めて、意味や使い方について説明した辞典。  
**古語辞典** 古い時代に使われていた日本語を集めて、意味や使い方について説明した辞典。

百科事典

あらゆる分野の事柄を五十音順などに並べ、その一つ一つを説明した本。何かについて調べたいとき、どんな資料を調べればよいかわからないときには、まず百科事典を調べると、基本的なことがわかる。

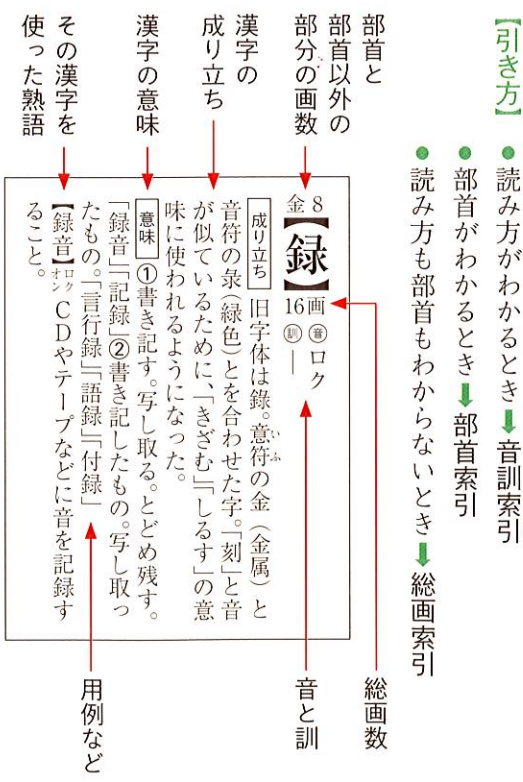
インターネット

最新の情報や世界中の情報を知りたいときには、インターネットが便利である。情報源が正しいかを確認して使うようにする。

63 インターネットを利用する

漢和辞典 (漢字辞典)

漢字の読み方・成り立ち・意味、その漢字を使った熟語の意味などを調べたいときには、漢和辞典を使う。



やってみよう

「説」という漢字を、音訓索引・部首索引・総画索引、それぞれの引き方で探してみよう。

図書館の使い方

図書館には、本や辞典、新聞、雑誌など、さまざまな資料がある。目的の資料を効率よく探すためには、資料がどのように分類され、並べられているかを知るとよい。図書館の本は、一般に日本十進分類法にもとづいて分類されている。そのおおよそを理解しておこう。

日本十進分類法のおおまかな分類

000 総記	500 技術・工学
100 哲学	600 産業
200 歴史	700 芸術・美術
300 社会科学	800 言語
400 自然科学	900 文学

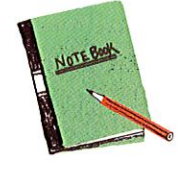


やってみよう

上記の他にもさまざまな辞典や事典がある。実際に学校図書館に行き、手に取って紙面を見てみよう。



# 続けてみよう



心に残る言葉や印象に残る本に出会ったら、書き留めておこう。次の例を参考に、一年間、自分なりの記録を続け、折にふれて紹介し合おう。

## 言葉の手帳

教科書や、本、新聞、テレビ、広告、看板、歌詞、会話など、身の回りで出会った言葉から、印象に残った言葉、気になった言葉を書き留めよう。

日付 〇月〇日

言葉 「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」  
—「星の王子さま」サン＝テグジュペリ

感想 ☆目に見えることが全てじゃない。見えなくても大切なこと。それを心で見られる人になりたい。

〇月〇日

「風光る」  
— 小学校の中山先生からの手紙

☆「〇〇辞典」で調べたら、「春の日差しの中をそよ風がふきわたる様子」とあった。風がさらめく感じが伝わる美しい言葉だ。いつか自分でも使ってみたい。

## 読書記録

本を読み終えたら、読書記録を残そう。また、図書館や書店に行ったり友達にすすめられたりして興味をもった本は、「読みたい本」としてメモしておこう。

[書名] まるごと好きです

[著者名] 工藤直子

[発行所名] 〇〇〇社

[発行年] ΔΔΔΔ年

[読み始め・読み終わり] 5/23 ~ 5/30

[読もうと思ったきっかけ]

「野原はうたう」の作者紹介にあったので。

[感想・心に残った表現]

工藤直子さんと友達になったような気がした。なかでも、中学校時代のエピソードには、共感できる部分が多かった。

[読みたい本リスト]

- ・「あいたくて」工藤直子 (工藤さんの他の詩集も読みたくなった。)
- ・「銀河鉄道の夜」宮沢賢治



# 1

### 物語

## 花曇りの向こう

季節のしおり 春

瀬尾まいこ



書く

## わかりやすく説明しよう

観点を立てて書く

練習 ① 情報を的確に聞き取る

漢字 ① 漢字の組み立てと部首

# 学びをひらく

いろいろな言葉にふれながら、学習の見通しをもつ



# 花曇りの向こう

瀬尾 まいこ

### 目標

- 場面や登場人物の描写に着目して、内容を読み取る。
- 人物の気持ちの変化をとらえ、題名にこめられた意味を考える。

「なんや、また気が重そうな顔して。」

朝食にみそ汁やら焼き鮭やらを並べながらばあちゃんが言った。

「胃が痛いんだ。」とおなかを押さえて答える僕に、「そこ、胃じゃなくて腸や。」とばあちゃんが笑った。

小学校卒業と同時に、僕はばあちゃんの家に戻ってきた。転勤が多い父さんは新しい住まいを探すのはもったいないと、ばあちゃんの家での同居となったのだ。父さんもパートで働く母さんも朝早くから仕事に出てしまうから、朝ご飯か



ら夕方まではばあちゃんと二人だ。

「転校なんて、明生、慣れたもんやろ。それに今回は中学入学と同時になんやし、ちよちよいのちよいや。」

「中学入学って言ったって、だいたいみんな小学校からの仲間なんだ。簡単にい

くわけないだろ。」  
「そんなん言うたら、ばあちゃんなんか、こないだパッチワークの展覧会を乗り切ったと思ったら、再来週にはフラダンスの発表会や。次々と困難がやって来る。」

ばあちゃんはそう言うのと、勢いよくみそ汁を飲んだ。

小学校で二回、それに今回。僕は通算三回も転校をしている。「父さんの仕事の都合」、それだけの理由で、遊び慣れた場所とも気が合う仲間とも、あっさりさよならだ。僕ら子供は、意思と関係なく無理難題をふっかけられる。好き勝手にやっているフラダンスやパッチワークといっしょにされちゃ困る。

「いつまでもぼそぼそ食べてんと、おなか痛いんやったら、梅干し食べとき。」  
ばあちゃんは僕の皿に梅干しを乗っけると、片づけのために立ち上がった。捻挫に頭痛に腹痛。ばあちゃんは何でも梅干しでよくなると思っている。

「おはよ。」とつぶやきながら教室に入ると、同じようなぼそりとした反応が

(26ページ)  
題 漢花曇り

2 漢みそ汁

4 漢押さえる

4 漢僕

(27ページ)

6 そんなん言うたら そんなこと 言ったら。

6 パッチワーク さまざまな色や 形、大きさの小さな布をぬい合 わせて一枚の布を作る手芸。

13 食べてんと 食べていないで。

13 食べとき 食べておきなさい。

9 通算意



返ってくる。中学生生活が始まって三週間。僕にはまだ友達といえるものはできていない。小学校のときはもう少し簡単だったはずなのに、なかなかうまくいかない。

「今日も曇りやな。じいちゃんが花曇りって言ってたけど、四月は意外と天気悪い日が多いねんな。」

座席に着くと、となりの川口君が声をかけてきた。川口君は毎朝、先生が来るまでの間話しかけてくる。けれど、それはいつだってうまくつながらない。

「あ、ああ。そうなんだ。」

それで会話は終了。川口君も僕もさっきより空気を持って余して、窓の外を見つめるしかなくなってしまう。

「これで桜が全部散ってしまうな。」と言えはよかったとか、「花曇りって何。」

ときけばよかったとか。思いつくのは後になってからだ。晴れることを放棄したようなぼやけた空に、僕は今日も生ぬるい息をはいた。

「こっちこっち、パス。」

か細い雨が降っているせいで、今日の体育はバスケットボールだった。まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなか厄介だ。だけど、僕はバスケットは

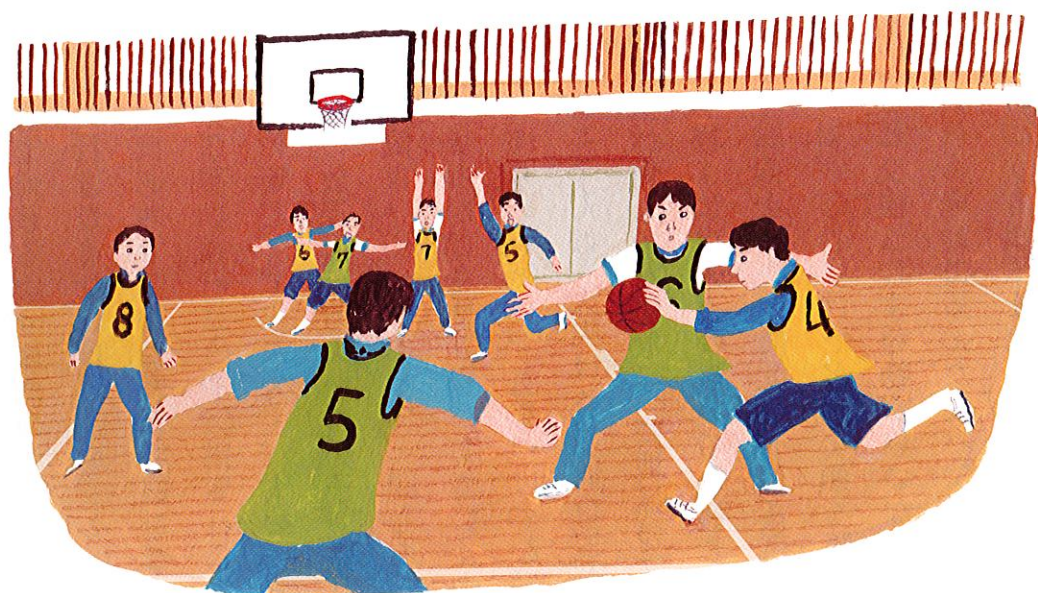
5 多いねんな 多いんだね。

9 持て余す意

12 放棄意

15 か細い意

16 漢 ヨウカイ 厄介



得意だった。今日はなんとかなるかもしれない。

僕は俊敏しんびんに体を動かした。敵の

ボールをカットすると、わっと歓声カンが起

こった。チャンスだ。はやるはやる気持ちを抑えて、ドリブルしながら辺りをうかがう。

ゴール下にはみんながあふれているけど、

左にずれた山崎君やまざきの前だけばかりと空い

ている。ここだ。僕はねらいを定めて、

するどいボールを送った。いいパスだっ

たはずだ。ところが、山崎君の手に当

たって、ボールはぼとりと落ちた。今日

もわずかなとっかかりはするりと抜け落

ちていった。

「いいねえ、子供は。ぼんやりしとって

も、やる事が転がってくるんやから。」

明日の野外学習用に向けてお菓子を買

4 はやる意

3 漢 歓声

4 漢 抑える

12 漢 抜け落ちる

16 漢 お菓子



うお金をくれるようにたのおと、ばあちゃんはうらめしそうに言った。

「別に行きたくないけど……。」

僕はばあちゃんがくれた小銭こぜにを手にしてつぶやいた。

「お菓子買いに行こうや。」

「駅前に新しくできたスーパーな。あそこなら安いし。」

今日の放課後、何人かの男子で盛り上がっていた。「僕も行こうかな。」そう言うすき間はいくつかあって、間まもあった。でも、声は出なかった。入学式から何度かのきっかけをやり過ぎしていく中で、ハードルは高くなるばかりだった。

「いつてらっしゃい、気をつけてな。」

ばあちゃんは「大人は待つとつても何もやって来てくれんから、探さんとあかんわ。次は何しようかな。」と地域の文化教室のお知らせを見ながら僕を見送った。

スーパーにはみんながいるかもしれないから、僕は駅とは反対方向の小さな菓子屋に向かった。「いらっしゃい。」と眼鏡をかけたおじいさんがかすれた声で言うのに、「どうも。」と軽く頭を下げながら、お菓子を探す。この期ごにおよんで、みんなと交換こうかんしやすい物がいいな、なんて考えてしまう自分が情けない。

「ここにも売ってるんだ。」

いくつもお菓子をかごに入れた僕は、なつかしいパッケージを見つけ手に取っ

た。昔よく食べたかたい梅干しのお菓子。父さんが好きだったせいで、僕は幼稚園のころから気に入って食べては、すっぱいのにと周りをおどろかせていた。でも、これじゃだれも欲ほしがらないよな。そう思って棚にもどそうとすると、

「お、俺もそれ買おうと思ててん。」

と声が聞こえた。毎朝聞いている声だ。振り返ると、川口君がいた。

「宮下君も、梅干しのお菓子、好きなんや。」

ときかれて、僕は「すっぱいけどね。」とうなずいた。

「せやねん。すっぱいのに俺はじいちゃんが好物やから、しょっちゅう食べてる。」

「僕も小さいころから食べてた。」

「そうなんや。」

「うん。そう。」

「そっか。」

教室の外で会ったって、相変わらず僕らの会話はたどたどしい。

「……えっと、明日の野外学習にこれ、持って行こうかな。」

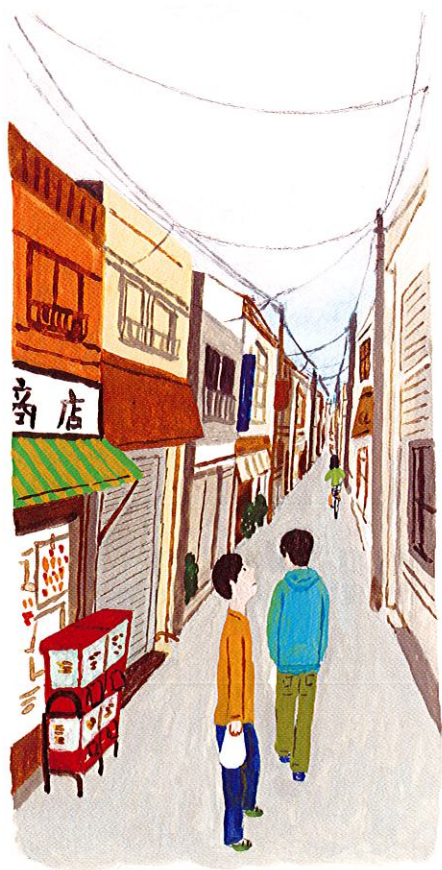
僕がとどこおりそうな空気をふっ切るように、お菓子をかごに入れると、

「ああ、俺も。つかれたとき、梅干し食べるとええって言うし。」



と川口君も手に取った。  
川口君と僕はいつもと同じようにぎこちない。  
ついでに、店を出ると最近続いているぼんやりとした花曇りだ。でも、僕が手に提げた小さなふくろの中にはあまらずっぱい梅干しがちゃんど入っている。

丹下京子・絵



4 ④ 提げる(さげる)

広がる読書

「あと少し、もう少し」  
瀬尾まいこ



作者 瀬尾まいこ 一九七四(昭和四九) — 大阪府出身。小説家。  
著書 「卵の緒」「図書館の神様」「幸福な食卓」「優しい音楽」  
「戸村飯店 青春100連発」など。  
出典 本書のための書きおろし。

【新出漢字】

28 厄	ヤク	厄年	28 介	カイ	介護	29 飲	カン	歓喜	29 抑	ヨク	抑圧	26 僕	ボク	僕の宝物
29 菓	カ	製菓	31 稚	チ	稚魚	31 棚	タナ	棚上げ	31 俺	おれ	俺の弟	31 振	シン	振動

【新出音訓】

31 欲しが(ほ)しがる	32 提げる(さ)げる
--------------	-------------



学習 目標

- 場面や登場人物の描写に着目して、内容を読み取る。
- 人物の気持ちの変化をとらえ、題名にこめられた意味を考える。

引っこして間もない「僕」は、どのような気持ちで中学校生活を送っているのだろう。「僕」の気持ちを考え、音読してみよう。

1 確認しよう

一行空いている部分に着目して作品を四つの場面に分け、それぞれの時・場所・登場人物を確かめよう。

2 読みを深めよう

- ① それぞれの場面の「僕」の気持ちが変わる様子や行動、会話を押さえ、そこに表れた気持ちを考えよう。
- ② 冒頭と結末の場面を比べ、「僕」の気持ちの変化が表れている風景や物を探してみよう。
- ③ 「僕」の気持ちの移り変わりを整理し、この作品の題名にこめられた意味を考えよう。

3

自分の考えをもとう  
「僕」のものの見方や感じ方などで共感できるところはないか話し合ってみよう。

言葉を広げる

この作品では、「花曇り」という春ならではの季節感を表す言葉が使われている。他にも、「春」を感じさせる言葉を身の回りから集めてみよう。

- 〈例〉
- 物事を表す言葉(花ふぶき、入学式……)
  - 様子を表す言葉(うららか、ぼかぼか……)

学習の窓

冒頭と結末に着目して、人物の変化をとらえる 327  
物語では、冒頭と結末で登場人物のものの見方や感じ方が変わっていることが多い。どのような出来事によって、登場人物がどのように変わったかを考えると、物語の構成を読み取りやすい。

学習を振り返る

- 物語の冒頭と結末で、「僕」はどのように変わったか。それはどんな描写に表れているか。
- 題名の意味について、どのようなことを考えたか。





「吉野」石田武

季節のしおり

春



あなたが春を感じるのとは、どんなときだろうか。さきほこる花を見たとき、鳥のさえずりを聞いたとき、風の暖かさに気づいたとき……。ここで紹介した作品から、春を感じ取ってみよう。

さくら さくら、  
野山も、里も、  
見わたす かぎり、  
かすみか、雲か、  
朝日におう。  
さくら さくら、  
花ざかり。  
「さくらさくら」(作者未詳)より

いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
いちめんのなのはな  
かすかなるむぎぶえ  
いちめんのなのはな  
山村暮鳥「風景 純銀もさいく」より

**春のこよみ**  
立春 | りっしゅん | 暦のうえで春になる日。現在の2月4日ごろ。旧暦では1月の初めごろだった。  
啓蟄 | けいちつ | 冬ごもりから虫が地上に出てくるという意。現在の3月6日ごろ。旧暦の2月。  
清明 | せいめい | 天地が清々しい空気に満ちる季節ということ。現在の4月5日ごろ。旧暦の3月。

漢字を確認しよう ・ は中学校で学習する音訓 310

新しく習った漢字

1 次の〃——線部の言葉を讀もう。【漢字の読み】

- ① (ア) 汁粉と煎茶をいただく。 [ ]  
(イ) 墨汁を買いに行く。 [ ]
- ② (ア) せみの抜け殻を集める。 [ ]  
(イ) 斬新で奇抜な意見だ。 [ ]
- ③ (ア) 銀行で料金を振り込む。 [ ]  
(イ) 感情の振幅が大きい。 [ ]

2 次の□に合う漢字をへゝから選ぼう。【同じ音読みの漢字】

- ① カン〈歎・勸〉 (ア) □ 告 (イ) □ 喜
- ② カ〈華・菓〉 (ア) □ 美 (イ) 茶 □
- ③ ヨウ〈揚・陽〉 (ア) 抑 □ (イ) □ 気
- ④ ショウ〈紹・招〉 (ア) □ 待 (イ) □ 介

小学校で習った漢字

1 次の〃——線部の言葉を漢字で書こう。(必要ならば送り仮名を書こう。) 【漢字の書き】

- ① こんなんに打ち勝つ。 [ ]
- ② てらん会に出品する。 [ ]
- ③ ふくつうで欠席する。 [ ]
- ④ 季節外れの雪がふる。 [ ]
- ⑤ ふとんをほす。 [ ]

2 次の□に○の部分をもつ漢字を書こう。【同じ部分をもつ漢字】

- ① **ヤケ** (ア) □ 単に見つかる。 (イ) 政 □ を調べる。
- ② **オ** (ア) 南極を □ 検する。 (イ) 力を発 □ する。

34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
紹	揚	華	勸	幅	込	奇	斬	殻	墨	煎
シヨウ	あがる	はな	すすめる	はフ	こむ	キ	きざん	から	すみ	いせん
紹介	揚げ物	華道	勧告	歩幅	税込み	奇異	斬新	地殻	墨絵	煎茶

【新出漢字】